

「モノのインターネット」時代の通信規格の開発・実証

身のまわりのあらゆるモノがインターネットに接続される環境における機械同士の通信規格の開発・実証を行い、国際標準の獲得に取り組む。

1 施策の概要

(1) 施策の背景、課題等

ネットワーク技術やそこに接続される端末技術の発展に伴い、身のまわりのあらゆるモノがインターネットに接続される環境（M2M: Machine to Machine）が進展している。M2M環境下では、従来は認識できなかった現実世界に存在する多数のモノの状況を、瞬時に把握することが可能となり、それらの情報の活用・組み合わせによる新しいシステムやサービスの実現が期待されることから、世界中の研究機関や標準化機関において検討が進められている。

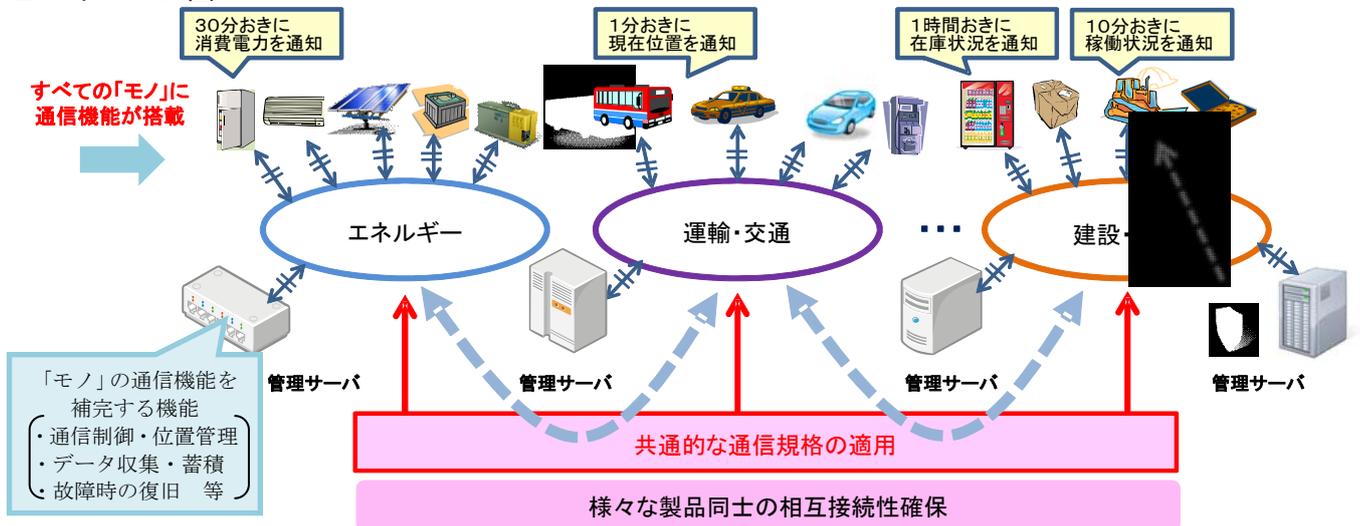
ITUやIEEEにおいて、標準化について検討が開始される一方、欧州では、ETSIにおいて専門の検討プロジェクトが立ち上げられ、中国では「物聯網（ウーレンワン）」プロジェクトの下、国家レベルで検討を加速している。

こうした中、我が国においても、ICT産業の国際競争力強化の観点から、諸外国の動きに遅れをとらないように、この分野における取り組みを加速・強化していく必要がある。

(2) 施策の具体的内容、施策の目的を達成するための手段、方法

あらゆるモノがインターネットに接続される環境の中、機械同士が人間を介在せず相互に情報交換し、自動的に最適制御するための安全性・信頼性の高い通信規格の開発・実証を行い、国際標準の獲得に取り組む。

2 イメージ図



ITU等における国際標準化競争で主導権を確保することで、我が国の国際競争力を維持・拡大